

関門連携委員会



6月9日(木)北九州市において、23名の委員出席のもと、2022年度第1回関門連携委員会を開催しました。

当日は、TOTO株式会社 経営企画本部ESG推進部 主幹 曾根崎修司氏によるご講演の後、当委員会の2021年度実施状況報告および2022年度事業計画を審議し、原案どおり承認されました。ここでは、講演の概要をご紹介します。

〔講演要旨〕

「TOTOグループにおけるSDGsへの貢献」

TOTO株式会社
経営企画本部
ESG推進部 主幹
曾根崎 修司氏



■TOTOの企業理念

TOTOはもともと創業者の理念において社会貢献を謳っており、その精神はそのままSDGsへ繋がっている。先人の志は「TOTOグループ企業理念」として脈々と受け継がれ、この先もTOTOが全社一丸で目指していく姿を示している。

企業なので経済価値を追求するのはもちろんだが、社会的責任を果たすためには社会的価値、環境価値をもたらさないといけない。これら2軸の価値を追求していくことがSDGsに繋がっていく。この考えに沿って中長期の経営計画を回している。

■SDGsへの貢献

TOTOでは事業を通じ、

- ・「きれい・快適」を実現すること
- ・「環境」を守ること
- ・「人とのつながり」を築くこと

によりSDGsの貢献を目指している。

重要な社会課題解決とTOTOの重要決定事項はほぼ同じで、社会課題解決を進めることで経済的成長も達成し、それがSDGsにも繋がると考えている。

■「きれい・快適」

独自のクリーン技術を搭載したトイレやウォシュレット、またユニバーサルデザイン(UD)を通じて、世界中できれい・快適を実現していく。

ウォシュレットは1980年6月に誕生し、今年、発売40周年を経てこれまでに5千万台以上を出荷しており、TOTOは水洗トイレの普及をリードすると共に、ウォシュレットを普及させ、日本できれ

い・快適の実現に貢献している。これを日本だけでなく、東南アジアにも普及していきたい。これはSDGsの「6.安全な水とトイレを世界中に」に直結しており、TOTOとしても一番力をいれて取り組んでいく根幹の事業だと考えている。

また、すべての人の使いやすさを追求するために2006年にUD研究所を設立した。商品開発プロセスで、お客様に実際に商品を使っていたり検証を行い、「使いやすい空間」の実現に取り組んでいる。

■「環境」

節水商品の普及、ものづくりにおける温暖化対策、TOTO水環境基金による社会貢献活動など、さまざまな国・地域で地球環境に貢献していく。

水資源問題は世界的に深刻化しており、水ストレスに直面する人口も増加すると予想されている。深刻な水不足のため、世界にはトイレの洗浄水量に厳しい規制をかけている地域が多くある。このことから、便器の節水性能向上と普及拡大はグローバルな水資源の保全に貢献すると考えている。

■「人とのつながり」

「人とのつながり」とはお客様、社会、社員、お取引先など、さまざまなステークホルダーと良好な関係を築いていくこと。例えば、サプライチェーン・マネジメントとして、倫理的かつ社会・環境にとって有効な行動を行うには、自社のみならず、サプライチェーン全体が共に高い水準で実践していくことが必要だと考え、企業訪問等を行い、持続可能な観点から、リスクの有無を判断し、場合によっては是正していただくなどの、CSR(企業の社会的責任)活動に取り組んでいる。

TOTOは、社会が求める価値ある商品やサービスの提供により、持続可能な収益成長を果たすと同時に、さまざまなCSR活動の推進を通じて、SDGsの目標達成に貢献していく。

(担当: 中村)